

どっちが正しい

「宮島」「宮島」

中 林 幸 男

(会員・海上保安庁勤務―長島―)

佐伯から上浦に行った人なら、上浦と佐伯の境界を示す浪太鼻なみづなから大入島に連なる松と岩の小島を見て、美しく思い、豊後二見に劣らぬ佐伯の海岸線の美しさを、自慢したくもなったこともあるだろう。

しかし、どこにも、この美しい島を何と呼ぶのかそれらしい観光案内板も表示も説明もない。それもそのはずこの小島は地図にはのっているが明らかでない。

私の調査によれば、海上保安庁発行の海図第一五一号には「官島」、国土地理院の承認を受けて発行している佐伯市・県等の各種発行の地図では「宮島」となり、いずれが正しいか判断しかねる。

大入島の地元の人々は、昔から「かんどう」と呼んでいるようである。

佐伯市役所の登記台帳には、昔、大入島総代××他×

×名所有と登記されているとのことである。(現物を見ていないので確証できないが、筆で書けば、宮も官も見次第に見えるのではなからうか)。

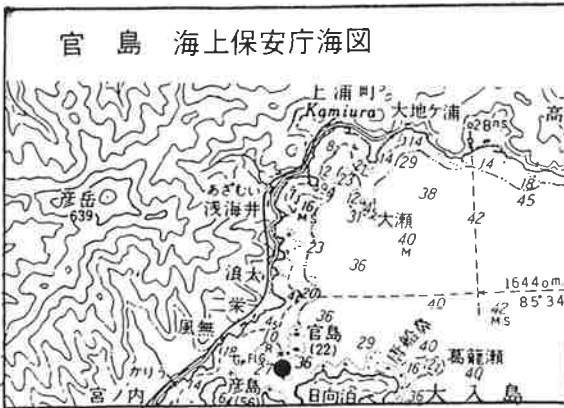
最近、古い地名は歴史を残すうえで大切なものとして正確に残そうという運動が各地で起っている。そこで私は愚問とは思ったが、この問題をあえて提起し、読者の見解を伺いたい。

地元の古老でも学者でもない私が、判定することは反論をかうこと確実であろうが、提起するからには、私見にも耳を傾けていただきたい。

私は率直に言って「官島」が正しいと思う。その理由は、日本の歴史を語るに避けることのできない夢とロマンの中国の古書「魏志倭人伝ぎしわじんでん」にまつわり、かかわりあがあると思うからである。



左側の黒い小さな島が官島



私は、当地方は神武東遷ゆかりの日向泊等があることからして、倭人伝に記載されている旁国二一ヶ国の巴利国ではなからうかと思料している。(当地方が巴利国ではなからうかという問題は、長くなるので今回は省略させていただきます。倭人伝の旁国鳥奴国が、現宇目町に比定されている見解は多い)。

倭人伝によれば、当時国王を「官又日卑狗」(官または彦という)と呼んでいたからである。これを裏付けるように、近くに「彦島」「彦岳」がある。これらのことからして、「宮」でなく「官」をあがめ、命名に到った理由ではないだろうか。夢とロマンの日本の古代史、邪馬台国を解く鍵は、思わぬところにあるか

もしれない。

豊の国、大分県には、ヒミコやヤマタイ国の論争に熱心な首長（宇佐・安心院・国東等）も多い。

歴史を知ることが明日の発展につながる。首長等が観光発展をめざすなら歴史にも活動的であってほしい。新年への愚者の願いである。

筆者紹介

小林氏は海上保安庁勤務。お仕事の関係で行動される範囲が広い。転任される各地の古い歴史に興味をもたれる学究の徒。

数年前五所明神の六角井戸と大坂。瓦師甚兵衛銘の瓦を見つけて届けて下さると共に「倭寇と遣明船の航跡を追って」の田中建夫氏の記事と六角井戸の写真を提供して下さいました。

平戸福江の六角井戸調査は弥生グループの探訪報告が届いた。私も平戸の六角井戸、オランダ井戸を巡って来た。

昨六十年八月一日、NHK放送の日本海岸線取材報告中に、瀬戸内海の島で各藩が潮待ち、風防けをする島に六角井戸が放映された。

小林氏のこれに関係した註記に、佐伯人の千二百年前の古い歴史を採った資料は少ない。五所明神参詣者数などから信仰心が薄いと感ぜられ、どうも昔の佐伯人は何処へか移住したのではないかとさえ想像されるとして

五所明神創建前後の下記年表を掲げて居られるが、官島か宮島か、からの推論と考え併せて佐伯人として考えさせられる。

古代の疑問に取り組んで見る事も大切ではなからうか。

清田記

(分県地図)



五所明神創建当時の関係年表

中林 幸男

時代	紀元	年号	事	項
天平	七二五	神龜二	八幡宮を宇佐小倉山に建立	
天	七三七	天平九	豊後国正税帳を上達	
貞観	八〇七	大同二	豊後など五ヶ国連年疫病流行、死者半ばに達し、生存者も造船に疲れたため田租一ヶ年免税	
倉	八三八	承和五	延喜式奏進	
鎌	九四一	天慶四	海賊追討使源経基、豊後佐伯院で賊首桑原生行を捕える	
山	一一九〇	建久元	緒方惟栄平家追討の功により厚免され上州沼田荘から海部郡佐伯荘に入る	
桃	一二二六	嘉録二	倭寇活動を初め、武士化した海賊が大陸と交通、私貿易をする	
土	一五二七	大永七	海部郡佐伯惟治、菊地義武と通じ、大友義鑑に叛き、臼杵長景に滅さる	
安	一五四一	天文一〇	豊後にポルトガル船漂着	
室	一五四九	宝徳一	ザビエル鹿児島に渡来	
町	一五八七	天正一五	秀吉軍九州に入る	
・	一五九四	文録三	堺商人ルソン助左衛門、ルソンより帰国	
・	一六〇一	慶長六	毛利高政日田より佐伯に入る	
戸	一六四七	正保四	豊後国郷帳に大坂本郷なる地名見ゆ	
江	一六九七	元禄十	神崎孫左衛門という瓦師を毛利高久公召抱え	